

風が……雨が……

加藤文子

大忙しの日々も、ようやくひと区切り。今日こそゆっくりしよう、今日こそ体を休めようと、早々にお風呂につかって寝床に入る。

少しうとうとしはじめたとき、カタッ、何かが揺れる音がする。いやな予感が走る。

ザー、ズワァー、始まった。いきなり大風が……。そして降り出した雨はスタッカートで屋根を打つ。

あのひと吹きで、根洗^{*}い仕立てのミソハギや、四方に枝を伸ばしたコムラサキは倒れてしまったかもしれない。風雨にさらされ倒れたり、棚下に落ちてしまった盆栽たちのシーンがよぎる。少しのあいだに風も雨も激しさを増す。眠ってはいられない。急がなければ……。

パジャマの上からオーバーパンツやジャケットを着込んで外へ飛び出す。雨合羽を着るのを忘れたことに気づいたのは、外へ出てしまってから、引き返す余裕はない。



いちばん気がかりなところ、風が吹き抜ける入口近くの棚に向かう。幸い、大事に至らずにいてくれた。とはいえ、いつ落ちてもおかしくない様子で鉢をカタカタいわせながら棚の上でふんばっている。心配したコムラサキも、風に煽られながらも落下せずじやない。私の救出を待っていたのかもしれない。

安全を考えて、コムラサキは温室へ移動、その他の草木も低い棚へ集合させた。

再び外灯でてらした庭をウロウロする。横なぐりの雨や風が時間とともに体にこたえて、少しポオーツとなっている。

おぼつかない足どりでデッキ脇の棚に近づいてみると、棚の隅にあるはずのフォサーギラの大きな盆栽がなくなっていることに気づく。ここは建物に囲まれて安全なはずが、どうしたわけか棚から落ちていた。近くの小さな盆栽も横倒しになったり落下して、まともに棚上で立っているものがない。

竜巻が通り過ぎたような光景がひろがっている。庭でいちばん穏やかと思える場所が大変なことになっていた。

とにかく拾い上げて軒下へ移す。鉢が割れたか、枝が折れたかどうかは、明朝確認しよう。

ひと通り庭をまわり終えた頃には、くつの中で水は踊り、体中ずぶぬれでグシャグシャだった。

雨合羽のことは、とうにどこかへ行っていた。くたくたを通り越して感覚が無い。

夜が明けたら、始めないと……。負傷した盆栽の手当てがある。荒れた庭の片づけもある。

*根洗い仕立てについて：皿上で植物を育てる方法。鉢の中で根が密になった頃を見計らって、根の部分を鉢から取り出す。すると充実した根のかたまりが姿を現す。それを皿の上で育成。はじめは露わに見えていた根が、数年後には苔におおわれる。自然にそうなる。



根洗い仕立てのヒバ（ヒノキ科）
盆養 28年